

南日美展留学生 学びの地で展覧会

絵画が紡ぐ日仏の絆

グレー市19年2月開催

南日本美術展（南日本新聞社主催）で海老原賞、吉井賞を受けてフランス留学し、グレー・シュル・ロワン市で滞在制作した鹿児島県海外派遣美術留学生の展覧会が、2019年2月に同市で開催される。洋画家黒田清輝ゆかりの地・グレーでの展覧会に、留学生を支援してきたモアンヌ前田恵美子（72）鹿見島市出身、パリ在住は「日仏の交流が深まるきっかけに」と期待を込める。



●グレー・シュル・ロワンの風景を描いた石原琢二郎さん（右）の滞欧作品展を鑑賞するモアンヌ前田恵美子さん夫妻（中央）と前村卓巨さん（鹿見島市立美術館）グレー市で開催される南日美展の海老原賞・吉井賞の派遣留学生とモアンヌ前田恵美子さん（前列右から2人目）19日、鹿児島市荒田1丁目

展覧会「黒田清輝の足跡を訪ねて グレー・シュル・ロワンの21世紀の日本人画家たち」はグレー市の主催。日仏友好160周年にあたる18年は、「ジャポニスム2018」展がパリを中心に開かれる。これに関連して、

Q **ズーム**
グレー・シュル・ロワン市
 パリ郊外南東部、セーヌ川の支流ロワン川沿いにある。19世紀、カミーユ・コローら世界の画家

に愛された芸術村。明治時代に留学していた洋画家黒田清輝（鹿児島市出身）が2年半滞在して「読書」など初期の名作を残した。2001年には「黒田清輝通り」が誕生した。

鹿見島の留学生の作品を紹介する展覧会を企画した。
 グレー市には01年、モアンヌ前田さんや当時パリ留学していた前村卓巨さん（58）現・松陽高校教諭の尽力で「黒田清輝通り」が

誕生。南日美展の留学生が訪れ、同市に滞在した際、作品を寄贈してきた。これら「鹿児島コレクション」の洋画や日本画が市役所、ホテルに飾られ、松陽高美術科が修学旅行で訪れるなど、市民も鹿

児島への親近感を抱いているという。
 展覧会には、前村さんをはじめ、現在留学中の吉村英彦さん14人、美市小宿中教諭ら14人が協力予定。寄贈作品に加え、新たに同じ大きさのキャンバスに

制作して出品。日本語やフランス語の展覧会図録も作り、松陽高生の作品も並ぶ。
 モアンヌ前田さんは13日、グレー市長から三反園訓県知事宛ての親書を渡す。「黒田の時代から現在の画家、

そして高校生まで、鹿児島県とグレー市の絆は途絶えることなく続いている。活発な文化交流が続けられるよう、歴史に残る展覧会にできれば」と意気込む。
 （福留梓）